



妻有田中文男文庫 開館のご案内

今夏、越後妻有に新しい施設が誕生します。

学者棟梁と呼ばれた田中文男先生の蔵書を収蔵した「妻有田中文男文庫」です。設計はプロスペクターの山本想太郎で、館内にはカン・アイラン(韓国)の作品があわせて設置されます。



「妻有田中文男文庫」は田中文男先生の長年にわたる研究・調査に関係した書籍を閲覧できる施設です。専門的なものから、一般に読めるようなものまで、2000冊にも上る書籍が収蔵されます。

本の分類としては、辞典・日本史・地方史・考古学・民俗学・建築史・日本建築・住宅・民家・環境・都市計画・造園・庭園・木・地理・地学・大学・大学(論文)・建築家・世界・宗教・教科書・雑誌・INAX・美術・小説などとなります。



カン・アイランの作品「天の光、知の光」

田中文男先生は、現場で棟梁として民家・社寺の保存修復などの活動されてきた一方で、民家・文化の調査などをされてきており、また勉強会の記録(「普請研究」など)を本として出版したりと、研究者として活動してきた一面ももっておられます。その知識を生かした活動をしてきたことが、学者棟梁と言われるゆえんです。その知識と経験で建築界に多大な影響力を与えられてきました。

大地の芸術祭 2006 の「空家プロジェクト」においても、地震で痛んだ空家の診断をしてくださり、全体のアドバイザーとして協力してくださりました。

今後、この図書館を「民家の未来を考える学び舎」として、セミナーや勉強会などを開いていきたいと考えています。ぜひ、ご来館下さい。

開館日：大地の祭り期間中毎日(8月1日~9月2日)

時間：10:00~16:00

場所：新潟県十日町市上新田

田中文男

1932年茨城県生まれ。53年重要文化財の建築修理現場で働いたことから、木造建築の実践と研究を深める。20代で工務店設立、民家や社寺の修復保存に関わる。報告書、論文、講演も多く、現代的な視点をもった学者棟梁と呼ばれ、人材育成にも力を注ぐ。著書に『関東の住まい』『現代棟梁田中文男』(INAX出版)など。

山本想太郎

1966年東京都生まれ。早稲田大学理工学研究課(建築専攻)修士課程修了。91-03年まで(株)坂倉建築研究所に勤務。04年に一級建築士事務所「山本想太郎設計アトリエ」設立。現在、東洋大学非常勤講師、日本建築学会情報設計委員会委員、『DETAIL JAPAN』誌技術翻訳総監修。越後妻有アートトリエンナーレ2006には作家としても参加。主な設計作品に「水戸N邸」「国分寺の家」「板橋のリノベーション」「汐留プラザビル」など。

カン・アイラン(龔 愛蘭)

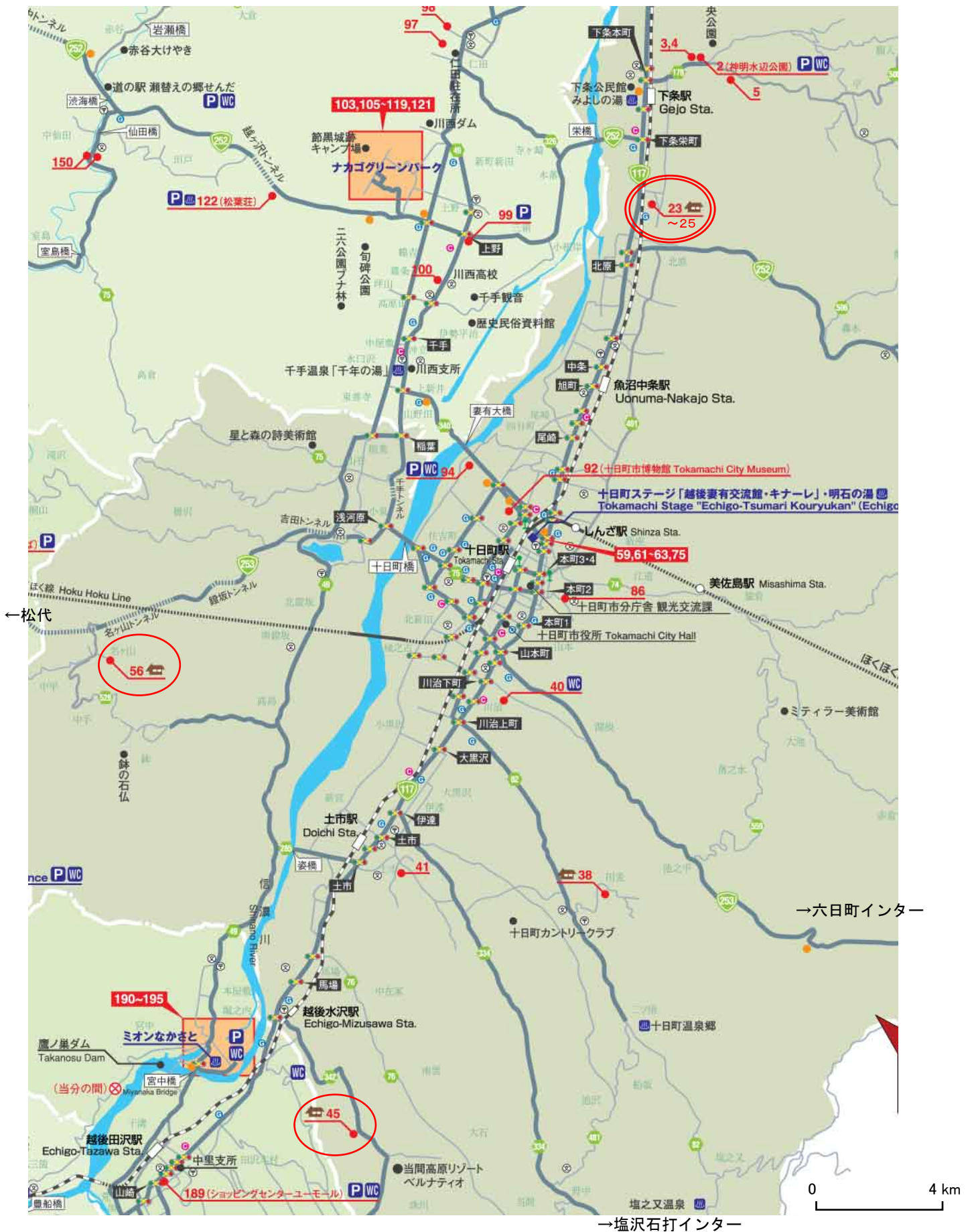
1960年韓国ソウル生まれ。梨花女子大学美術学部西洋画科(韓国)卒業、87年に多摩美術大学大学院を卒業。その後、02年にニューヨーク大学に客員教授として招聘される。また、02-04年までは、ニューヨークインターナショナルスタジオ&キュレトリアルプログラム(ISCP)のためNY滞在。現在は東京とソウル、アメリカを渡りながらインターナショナルに活動中。

大地の芸術祭現地事務局

TEL: 025-595-6310

FAX: 025-595-6311

Email: tsumari@artfront.co.jp



新潟県十日町市中心部地図

上記地図の赤丸は、8月1日～9月2日の間に見学できる、山本想太郎設計アトリエの作品です。
 ※妻有田中文男文庫以外は、2006年大地の芸術祭で作られた作品です。

- 23～25 : 妻有田中文男文庫 (art: カン・アイラン)、安堀雄文記念館 (art: 木村吉邦)
- 45 : 再構築 (art: 行武治美)
- 56 : 名ヶ山写真館 (art: 倉谷拓朴)